抗　議　文　(案)

中村時広　愛媛県知事　殿

2012年6月25日

　あなたは、６月１８日、定例記者会見で「伊方原発の再稼働は必要」と表明されました。私たちは、あなたの「再稼働は必要」との表明に重大な危惧と懸念を感じざるをえません。
　私たちは、この発言に抗議し、この発言の撤回と謝罪を強く求めます。

　あなたは、この間「再稼働の判断は白紙」との立場を県民に一貫して表明されてきました。しかしあなたは、６月１４日、枝野経済産業大臣を訪問され「（原子力安全委員会は）人員がいて、仕事があり、それから給与をもらっている状況のなかで（ストレステストの安全審査を）放棄している」と指摘し、原子力安全委員会にたいして従来の一次ストレステストのみの安全審査を進めるよう強くもとめられました。
　（６月１５日、閣議後の枝野経産大臣の記者会見において、記者の質問の中で、このような事実が明らかにされています。18日の知事記者会見でも。）

　さらにあなたは６月２０日、「原子力規制委員会設置法」成立について、「専門家が委員になるのだから、現実には（従来の原子力安全委員会などと）そう変わらないのでは」（「愛媛新聞」６月２１日付け記事）とあたかも他人事のようにコメントされています。
　あなたの「専門家」についてのコメントは、原子力安全委員会での「安全審査」も新たな原子力規制委員会での「安全審査」もたいして違いはないのだから、「伊方の再稼働のために、手続きとしての安全評価を早く出しなさい」と言っているのに過ぎません。
　あなたが指摘した電力会社や原子力安全・保安院、原子力安全委員会を構成してきた「専門家」こそが、「原発の安全神話」をつくりあげ、昨年、３月１１日の福島第一原発事故を不可避にしてきた人たちではないでしょうか。

　福島第一原発事故は、いまだ政府の言う「収束」とはほど遠く、全く収束の見通しなど立っていません。福島県内はもとより広大な地域に暮らす人たちを被曝させ、いまなお被曝の危険にさらし続けています。
　そして福島第一原発立地自治体である大熊町はじめ双葉郡内・市町村はじめ３０キロをはるかにこえる人たちの暮らしのすべてを奪い去りました。
　あなたは、「県民の命と暮らしを守る使命と義務」を県民から付託された行政の長として、この現実をどのようにお考えでしょうか。あなたがこの現実と事故原因究明の過程で分かったこと、そして再発防止のための仕組み作りに真剣に向かい合っているならば、あなたの「専門家」についての他人事のような上記のコメントなどできないはずです。

　あなたは、この間、①安全性に関する国の判断、②四電の姿勢、③地元の意向、の三つの条件を「再稼働同意の判断」の条件にしてこられました。
　今や、国民、県民の誰一人として、国や経済産業省、原子力安全・保安院、原子力安全委員会、電力会社に「安全」のお墨付きを与えてきた「専門家」たちの言う「安全」など信じてはいません。

にもかかわらず、６月１４日、原子力安全委員会にたいして、安全審査を進めるよう強く要請したり、新たに設置される原子力規制委員会についてのコメントをみるかぎりは、「伊方で二度と福島第一原発のような事故をおこさせない」との、あなたの強い決意とそのための必死の努力など感じることができません。
あなたは今でも厳格な規制を行う新たな規制機関など必要なかったと思っておられるのでしょう。あなたは、今でも「専門家」が評価した「安全」を信じておられるのでしょう。野田総理が「国が安全を保証する」と言ったから「安全」だと信じておられるのでしょう。
わたしたちには、到底理解できません。これらの考えはすべて福島事故を起こした背景要因だからです。あの事故を受けて、あなたが１ミリも変わっていないからです。

さて、防災は自治体が責任を負います。伊方原発の防災についてはあなたが責任者です。
この度、国は「大飯３・４号機の再稼働」を強行しようとしています。にもかかわらず、地元福井始め近隣自治体においては、万が一の「過酷事故」が起こった時の避難計画すら全く準備ができていません。この愛媛県ならびに地元伊方町においても全く避難計画ができていません。
あなたは、伊方でも避難計画ができていないなかで「再稼働を容認」するお考えなのでしょうね、状況を知っていて大飯の再稼働を妥当としているのですから。
避難計画など後回しにした「再稼働」、これでは、「福島第一原発事故のような過酷事故は絶対起こらない。国が保証する」との「原発の安全神話」そのものではないでしょうか。

あなたは、今後、事故がおこったときには、「福島第一原発を襲った事象」を超えた「想定外の事象」と言って責任を回避し、地元住民の命と暮らしを犠牲にし、切り捨てても、「原発の電力は必要」と言われるおつもりですか。
先日のNHK「クローズアップ現代」で「被曝していただいた」と言った細野原発担当大臣のように、あなたも「伊方をはじめ愛媛県民に被曝していただいた」と平然とおっしゃるつもりなのでしょうか。

今や、かつてのように「原発は絶対安全だ」と国も電力会社も、あなたも言明することができないはずです。もしかりにあなたが「原発は絶対安全」と今日も明言されるならば、あなたの主張についても一理あると思います。あなたが「原発は絶対安全だ」と明言できないのなら、原子力安全委員会に安全審査を早く進めよう、と強く要請するなど絶対にできないはずです。

また、「この国の状況を考えるならば、たちまち原発をなくすることは現実的でない」との理由で「再稼働の必要」を言われるのであれば、あのような「専門家」についてのコメントなど決してできないはずです。

私たちは、あなたの「再稼働は必要」との発言、１４日の「原子力安全委員会の安全審査を早くすすめるべき」の発言、その撤回と謝罪を県民の前にあきらかにすることを強く求めます。

以上

提出団体